

きらりと笑顔が輝くまち

とばぐらしの魅力を再発見

企画財政課移住・定住係

☎ 25 1227



市では、平成28年を「移住・定住元年」とし、都市部からの移住希望者を積極的に受け入れるため、切れ目ないきめ細やかな移住支援に取り組んでいます。

鳥羽へ移住してイキイキと生活している移住者のかたにスポットを当て、普段当たり前に感じている暮らしの中にある魅力を再発見したいと思います。

今回は、地域おこし協力隊として、答志町和具を中心に活動をしている五十嵐ちひろさんに鳥羽市（答志島）での生活についてお話をいただきました。

※地域おこし協力隊は、総務省の制度で、都市部から地方へ移住し、農林水産業への従事や地域の生活支援などの「地域協力活動」を住民と共に行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。



五十嵐 ちひろさん
地域おこし協力隊
離島（答志島）の魅力発信担当

《プロフィール》

- ・埼玉県春日部市出身
- ・イタリアの語学学校卒業後、東京の伝統工芸青山スクエアにて勤務
- ・平成29年4月から地域おこし協力隊として答志町和具へ移住し、現在に至る

【鳥羽に移住するまでの生活は？】

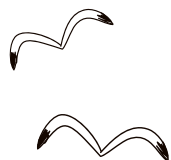
五十嵐さん 埼玉県の実家から片道1時間半かけて通勤し、東京にある日本全国の伝統工芸品を扱う店で販売員をしていました。
接客が主な仕事で、語学力を生かして海外からのお客さんの対応をすることも多かったです。

また、ウェブサイトで情報発信や、産地訪問などもしていました。

【地域おこし協力隊になろうと思った理由は？】

五十嵐さん 海があり、暖かい所に住みたいなと思っていたので、移住に踏み切りやすい「地域おこし協力隊」として移住しようと考えました。

鳥羽の答志島を選んだ理由は、仕事内容に興味があったことと、一度下見で案内していただいた際に、景色が美しく、食べ物もおいしく、人が面白いし、ここに住んだら楽しそうだなと思ったからです。



【移住する前の鳥羽（答志島）の印象は？】

五十嵐さん 実は鳥羽は子どもの頃に一度来たことがあり、海女さん、真珠、水族館のイメージがありましたが、答志島は移住する一年前まで名前も存在も知らない島でした。

【実際の鳥羽（答志島）での生活、人付き合いは？】

五十嵐さん 面倒見の良いかたが多く、すぐかわいがってもらっています。

朝はおじいさんやおばあさんの井戸端会議に参加して、プライベートでは夜にスナッ





ブログ紹介

五十嵐さんが答志島での暮らしの魅力について発信するブログ「SU ISOLA」(イタリア語で「島で」を意味します)
<http://www.chihiro-toushi.net/>



ブログ「SU ISOLA」トップページ

ブログ内の
記事の一部



フで若い人たちと飲んで、いい人付き合いができています。移住して4か月になります。が、一度も「出ていけ」とか「よそ者のくせに」とか言われたことが無いので、外の人が入ってくることに抵抗の無い土地柄なのかなと感じています。方言がきついので最初のうちは何を言っているか分からないことが多かったですが、最近ではちよつと答志弁を真似できるくらいになってきました。

【地域おこし協力隊での活動エピソードを教えてください】

五十嵐さん 島での生活に慣れるというのが最初のミッションなので、島の中で行われる行事にはなるべく顔を出すようにしています。いつ何があるか、いろんな人が教えてくれるので、最近では「あんなの方がよく知っている」と言われたり、「あそこでなにか準備しているけどなんだか知ってる？」と逆に聞かれたりすることもあります。地域のかたに頼りにされるようになって嬉しく思います。

【鳥羽(答志島)での暮らしの魅力は？】

五十嵐さん 人との関わりが密なことです。都会で生活していた時のように人間関係がドライだと楽な部分もありますが、私はもう少し人間らしい関わり合いがしたくて、それを求めて田舎にきたところもあります。そういう点では答志島はぴったりの場所だと思います。

【地域おこし協力隊の活動でどんな活躍をしていきたいか？】

五十嵐さん 答志島が観光地鳥羽を引っ張っている存在になるくらいに、たくさんのお客さん呼び込みたいです。

今は私が運営しているブログで細々と情報発信するくらいしかできていませんが、答志島の魅力をもっともっと発信をして、いろんな人に答志島のことを知ってもらい「行きたい！」と思ってもらえるように頑張ります。地域のみなさんと協力し合って、島の人も、観光客の人も気持ちよく過ごせる島を目指します。